

教科等の重点的な指導について

◆「思考し、表現する力を高める実践モデルプログラム」を活用した授業改善

- ・単元計画や授業計画の中に、「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」という4つの過程を意図的・計画的に位置付け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に引き続き取り組む。

◆学習の見通しをもち、「振り返り」を大切にした授業づくり

- ・既習内容や生活経験といった根拠のある見通しをもたせる工夫をする。
- ・学んだことを振り返り、「自分の言葉でまとめる」活動に徹底して取り組む。

◆個別最適な学び・協働的な学びを支えるICT活用

- ・児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法や教材等の提供及び学習時間の柔軟な設定等をするために、積極的にICTを活用する。
- ・児童生徒一人一人に応じた学習活動や学習目標に取り組む機会等を提供するために、積極的にICTを活用する。
- ・探究的な学習や体験活動等を通じて、子ども同士や多様な他者とのオンラインを含む協働的な学びを推進する。

◆言語活動の日常的な充実

各教科において、児童生徒の言語活動の機会を日常的に確保するとともに、それらの表現の質をさらに高められるように以下の取組を行う。

- ・語彙を増やす活動
- ・話し合う内容の焦点化
- ・発表の仕方の工夫
- ・感想や意見を書く活動
- ・長文や物語を要約する活動

◆検証機能を大切にした「指導改善サイクル」の改善

- ・全国学力・学習状況調査の問題の内容を把握する。
- ・全国学力・学習状況調査結果の把握とその分析を行う（県分析ツールの活用）。
- ・指導改善の取組を行う。
- ・指導改善の取組結果を検証する（客観的な分析による成果と課題の明確化）。

生活習慣・学習習慣について

◆生活習慣の見直しと改善

- ・児童生徒の携帯電話やスマートフォンの長時間利用や、家庭での利用ルールの未設定などの課題に対し、情報モラルや情報リテラシー、健康の維持増進等の観点から見直しと改善を図るとともに、保護者に対して啓発を図る。

◆家庭での学習習慣の定着

- ・学校（教員）は、児童生徒の実態に合わせて、家庭学習の量や質、方法、時間などを十分検討し、内容の充実を図る。
- ・学校（教員）は、児童生徒に対して家庭での学習方法や内容の充実を図るための指導、助言を行う。
- ・学校（教員）は、保護者に対して家庭学習の啓発を図り、習慣化できるように支援する。

9 指導の重点

○文部科学省提供の資料を活用し、各校の授業改善に役立てます。

- ・令和6年度全国学力・学習状況調査 報告書
- ・令和6年度全国学力・学習状況調査 解説資料

○千葉県教育委員会提供の資料を活用し、各校の授業改善に役立てます。

- ・「全国学力・学習状況調査データ」の分析ツール
- ・学びの突破口ガイド（小学校 低・中・高学年）
- ・ちばっ子チャレンジ100（小学校 低・中・高学年）
- ・「ちばのやる気」学習ガイド1・2・3（中学校 全学年）
- ・「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム改訂版
(小学校1年～中学校3年)

○千葉県教育委員会では、家庭学習の充実をめざし、さまざまな視点から自らの学びを築くためのヒントをホームページに掲載しています。

対象は、児童生徒のみなさんや保護者の方々、そして学校の先生方です。

下記URLを参照して、家庭で、学校でご活用ください。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/2011/kateigakushuu.html>

○香取市教育委員会では、保護者用リーフレット「家庭学習のすすめ」を作成し、全小中学校の児童生徒を通して全家庭に配付しています。